

注目ポイント

- ✓先週は、25日に米消費者心理の悪化を示す指標の発表を受けて、米長期金利が大幅に低下し、ドル売りが優勢となった。一時1ドル=148円57銭と約4か月半ぶりの円高・ドル安水準を付ける場面もあった。しかし27日には、米長期金利の低下が一服したことを受けて日米金利差の縮小観測が後退し、ドルが買い戻された。一方、日経平均株価は米ハイテク株安やトランプ政権の関税政策などが警戒されて大幅に下落し、週末28日には約5か月ぶりの安値で引けた。
- ✓今週は米国で2月のISM景況指数（3日：製造業、5日：非製造業）や雇用統計（7日）など重要な経済指標が相次いで発表される。このところ米景気の減速懸念が広がっているだけに、これらの指標が弱い内容となれば、市場は素直に米株安、米長期金利低下、ドル安で反応しよう。5日に予定されている日銀の内田副総裁の講演も注目材料。（北田英治）

①マーケット動向(実績データ)

2025年2月24日

～

2025年2月28日

市場・指標			2月24日 ～ 2月28日		2月28日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	 日本	日経平均 (円)	38,809	36,840	37,156	-1,621	-4.2%	
	 米国	NYダウ (ドル)	43,884	43,101	43,841	+413	+1.0%	
	 ドイツ	DAX (ポイント)	22,833	22,235	22,551	+264	+1.2%	

市場・指標			2月24日 ～ 2月28日		2月28日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	 日本	10年 (%)	1.455	1.320	1.370	-0.050	
	 米国	10年 (%)	4.45	4.19	4.21	-0.22	
	 ドイツ	10年 (%)	2.50	2.37	2.41	-0.06	

市場・指標			2月24日 ～ 2月28日		2月28日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	 米ドル (円)		150.99	148.57	150.63	+1.36	
	 ユーロ (円)		157.31	154.80	156.27	+0.12	
	 豪ドル (円)		95.46	92.73	93.52	-1.38	

市場・指標			2月24日 ～ 2月28日		2月28日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	 日本	東証リート (ポイント)	1,707	1,679	1,700	+18	+1.1%	
	 米国	NY原油 (ドル)	71.26	68.36	69.76	-0.6	-0.9%	
		NY金 (ドル)	2,974	2,844	2,849	-105	-3.5%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年3月3日 ~ 2025年3月7日

● 株式

もみ合いか

 日経平均
【予想レンジ】 36,500 円 ~ 38,000 円

- 先週の日経平均は大幅に下落。週前半は、米株式市場でのハイテク株安や外為市場での円高・ドル安進行を嫌気した売りが優勢となった。さらに週末28日には、前日の米株安や米関税政策への警戒から投資家心理が悪化し、日経平均は24年9月20日以来、約5か月ぶりの安値で引けた。
- 今週の日経平均はもみ合いか。6日に連合が25年春闘の要求集計結果を公表する。賃上げの勢いが確認できれば、日本株の押し上げ要因となろう。一方、今週は米国で2月のISM景況指数(3日:製造業、5日:非製造業)など重要な経済指標が発表される。米景気の減速懸念が一段と強まれば、米株安を通じて日本株の重しとなろう。

● 金利
(国債)

長期金利は強含みもみ合いか

 10年国債利回り
【予想レンジ】 1.340 % ~ 1.420 %

- 先週の長期金利は低下。週前半は、植田日銀総裁が前週末に長期金利の上昇をけん制したとの見方が引き続き金利低下要因となった。また米景気の減速懸念から米長期金利が低下したことも、国内金利の低下に繋がった。27日には2年債の入札が低調だったことなどから債券が一時売られたものの、週末28日には株安を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まり、安全資産とされる債券が買われた。
- 今週の長期金利は強含みもみ合いか。注目は5日に予定されている内田日銀副総裁の講演。内田副総裁が改めて利上げ継続の姿勢を示せば、国内金利には上昇圧力がかかりやすい。4日の10年国債入札も翌日に内田副総裁の講演を控えていることから、積極的な買いは入りにくいと予想される。



 為替
(米ドル)

円強含みでのもみ合いか

 米ドル/円
【予想レンジ】 149.00 円 ~ 152.00 円

- 先週のドル円は円安ドル高となった。25日のNY市場では、米消費者心理の悪化を示す指標を受けてドル売りが優勢となり、一時1ドル=148円57銭と約4か月半ぶりの円高・ドル安水準を付けた。しかし27日には、米長期金利の低下が一服したことを受けて日米金利差の縮小観測が後退し、ドルが買い戻された。
- 今週のドル円は円強含みでのもみ合いか。日銀の内田副総裁が5日の講演で改めて利上げ継続の姿勢を示せば、円買い圧力が高まる可能性がある。また今週は米国で2月のISM製造業景況指数(3日)や雇用統計(7日)など重要な経済指標の発表が相次ぐ。このところ米国景気の減速懸念が広がっているだけに、米経済指標が弱めの内容となれば、市場は米長期金利低下、ドル安で反応しよう。



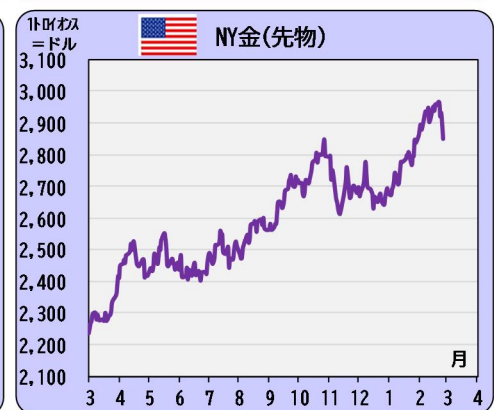
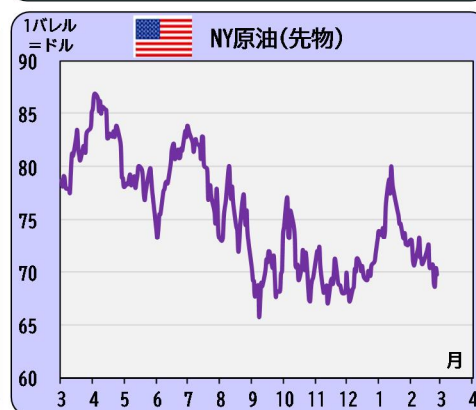
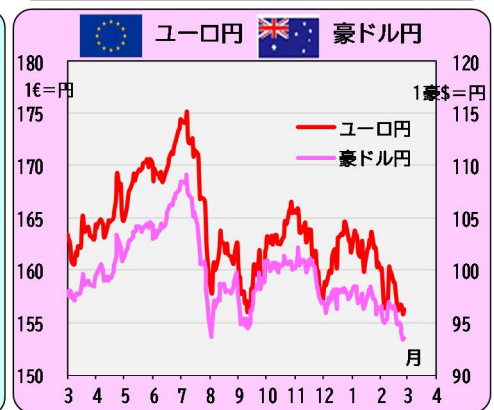
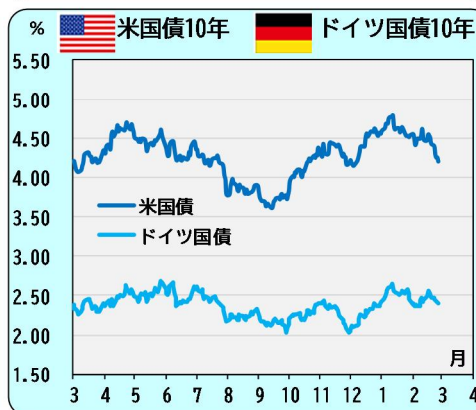
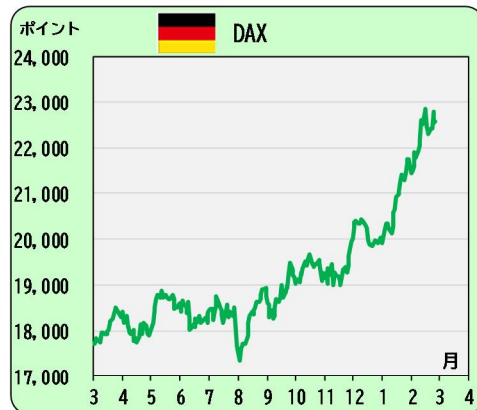
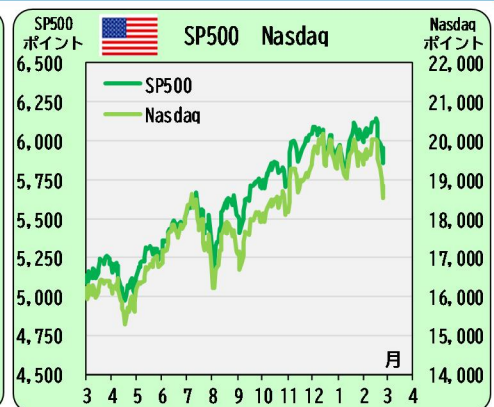
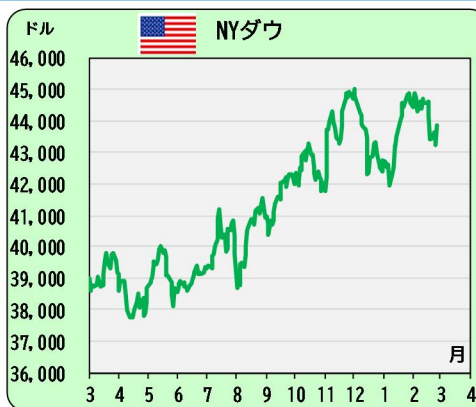
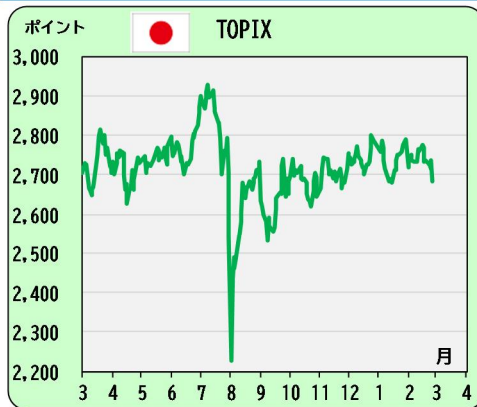
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月日	国 内	海 外
3/3(月)		米国: ISM製造業景況指数(2月)
3/4(火)	国債入札(10年) 完全失業率(1月)	トランプ米大統領の施政方針演説
3/5(水)	内田日銀副総裁が静岡県金融経済懇談会で講演	米国: ISM非製造業景況指数(2月)
3/6(木)	国債入札(30年) 連合が25年春闘の要求集計結果を公表	1-1: ECB定例理事会 米国: 貿易収支(1月)
3/7(金)		米国: 雇用統計(2月) 米国: 消費者信用残高(1月)



③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。